

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207736		
法人名	有限会社 ホサカ		
事業所名	グループホーム ゆとりの里		
所在地	秋田県山本郡三種町浜田字村下343-1		
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター		
所在地	秋田市将軍野桂町5-5		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は田園地帯と言うこともあり、のどかで、四季折々の風景を楽しむ事が出来る。利用者様の状態や希望に合わせ、環境整備を心がけ、対応に努めている。また、開設当初からの職員や、在職期間の長い職員配置により馴染みの関係を維持しながらよりよいサービスの提供を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は木造で、内装にも木材が使われていて家庭的な雰囲気を持っている。棚や台・小テーブルなども木材の手作りで使いやすく工夫されていて使い勝手の良いものとなっております。生活環境は良好である。また、利用者のかかりつけ医を継続して利用できるように支援し利用者に安心感を持たせていることや、誕生日に利用者の好きなところで職員と外食を楽しむなど利用者の居心地の良さと喜びを優先させている点は評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関に、ホーム理念・スタッフ理念を掲げている。スタッフ理念は平成26年3月、4月に見直し気分を新たに実践に取り組めるように努力している。	ホーム理念とスタッフ理念は玄関に掲示されている。スタッフ理念は職員会議でそれぞれ意見を出し合ってまとめられたものであり、実践につなげている。利用者がなじみの人や場所との関係がとぎれさせないという基本姿勢の文言がうたわれていない。	理念を検証する機会を設けて、地域密着型サービスの基本である「地域の中でその人らしく支える」という役割を付け加えることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会に加入をし、地元の商店や理美容室を利用するなど、交流をしている。また、9月の祭典行事の見学に出かけ顔見知りの方と交流出来ている。	町内会の一員として地元の自治会に加入しているほか地元の祭典にも参加するなど交流を図っている。事業所のきりたんぼ会に地域住民の参加を呼びかけグループホームの理解を深めてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	平成26年9月24日、ご家族、地域住民、運営推進会議メンバーの方を招き交流会を催し、認知症の方の理解や支援の方法について理解を深めて頂いている。また、入所相談時や面会時に相談等があれば助言をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの状況を報告する事により参加していただいた方々より様々な意見をいただいている。また、外部評価、情報開示の自己評価並びに評価結果について報告をしている。またそこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は年6回開催している。特に、利用者と家族は参加できる人全員に参加を呼び掛けており常に複数の参加者を得て開催している。26年10月開催の会議には消防署職員も参加しており、議題に応じた人の参画にも配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加等により情報交換の場としている。また、電話等により、空室情報等連絡してる。その他、運営上の相談、疑問など、電話などで相談できる関係を築いている。	運営推進会議のメンバーである地域包括センターが役場内にあることから常に密接な関係が築けている。日ごろの電話での相談もしやすい関係にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関に施錠はしないなど拘束しないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行っている利用者もいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加、また、ニュース等報道記事を回覧するなどし、ホーム内にて研修を行っている。また、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員から、研修の内容、資料をもとに、学ぶ機会を設けている。また、現在、関係機関との連絡を取りながら、日常生活自立支援事業の利用にむけた手続きを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時十分な説明をされていると思っている。今まで、契約や解約などによりトラブル等特はない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設けている。また、他の機関のリーフレットをご家族様に送付したり、ポスターを掲示したりしている。日々の日常会話や表情などから理解できるよう職員間で情報交換に努めるとともに、面会の時など声をかけるなどしている。	目安箱は設置しているが利用する家族はいない。意見や要望・苦情への対応の仕組みはありマニュアルに沿って処理し改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りなど職員の意見や提案を聞く機会があり、反映させている。また、日々の業務の中で意見がでた場合にも反映できるように努めている。	毎月1回の職員会議では意見を出しやすい配慮がされ新人職員も発言できている。急ぐ提案は業務日誌や申し送りに書いて回覧することで迅速に反映されるようになっていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備には個々の実績を配慮しながら整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を計画し、すすめている。また、研修を受けやすいよう勤務調整をしている。新人職員には内部研修により技術の習得の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県グループホーム連絡協議会に加入し交流できるよう努めている。また、研修等へ参加できるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できうる限り、ご本人様、ご家族様、利用されていたサービス機関様より話を聞く機会を設け、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家屋様が話されやすいように声をかけ、機会を作り、受け止める努力をしている。また、担当ケアマネジャーからも話を聞くなど対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とともに過ごす中で、一人ひとりの利用者様の話を聞き、学ぶことも多く、関係作りは良好であると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、月々の手紙など利用者様の近況を随時お知らせし、ご本人様と一緒に支えていただけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、ご本人様の希望がかなえられるよう努めている。例えば、通い慣れた理容室の利用や、かかりつけ医院の利用などは、継続することに努めている。	入居前の施設の訪問や在宅時に利用していたデイサービスの行事への訪問や馴染みの美容院の継続、かかりつけ医の継続利用などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、できる限り孤立することのないようにソファの配置など考慮し利用者様同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	比較的契約を終了すると、関係はなくなってしまっている。必要な時は、関係を断ち切ることなくかわりを持っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いを大切に、日々一緒に生活をしながら、本人の意向を把握することに努めている。担当職員が、アセスメントを行い、把握に努めている。	利用開始前に意向を把握するほか開始後一緒に生活しながら利用者本人の意向と面会の際に家族からの希望等の把握に努めている。利用前の事業所からの情報収集にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での会話などから聞き取り、又、ご家族様、ご本人様、が利用されていた他のサービス事業所などからも経過を聞き取るなどし把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の暮らし方、心身状態を個人記録など活用しながら把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族面会時などケアの在り方について話を聞くとともに、職員会議等において、担当者や職員の意見を聞き介護計画に反映できるよう作成している。	介護計画は職員会議で担当者や職員の意見を聞き、家族や主治医・協力医療機関の看護師の意見も反映し作成している。見直しは3か月に1度、問題がない場合は6か月に一度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、並びに業務日誌など活用しながら情報の共有に努め、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さまざまな機関の方々より協力を得ることが出来ていると考えられる。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームへ入所以前のかかりつけ医の活用を心がけ、できる限り、関係を崩すことのないよう一貫した治療が受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医・歯科医の継続受診を支援しており、往診してくれるかかりつけ医・歯科医もいる。また緊急時には協力医療機関であるドラゴンクリニックが対応しているなど適切な医療が受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護職員との関係作りは比較的良好であると思われる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族との連絡をこまめに取り、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来ること、出来ないことを明確にしており、ご家族様にも理解していただいている。又、かかりつけ医とも相談しており、看護師不在であるというホームの状態もご理解いただいている。	昨年度の課題であり、ホーム内で検討会議を実施した。行政への相談により、看護師が不在であることから看取りは無理と判断し、看取らない場合の対応について話し合いをしている。今年度中に明文化し職員が共有できるようにし、家族にも示せるようにする。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成24年12月に三種消防署にて、すべての職員が普通救命講習を受講している。また、26年10月23日にはホームにて三種消防署員より心肺蘇生法の説明を全職員が受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は三種消防署員立ち会いのもと、年2回は行っている。また、災害時の避難等についても地区消防団の方への協力を依頼していると同時に利用者のご家族、自治会の方へ、運営推進会議などを通して理解、協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を毎月第3日曜日に実施するなど職員の訓練に力を入れている。しかし、夜間の職員は1名となるため夜間想定避難訓練の際には家族1名と自治会長の参加を得ているが、立会した消防署からは、まだ夜間避難体制の人手が足りない指摘されている。	地域住民の協力を得るためには日ごろの関係強化が不可欠ことから、住民の協力関係を築くため積極的な働きかけを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人が年長者であることを認識し、礼儀を踏まえた声かけや対応を心がけ、利用者様一人一人の人格や誇りを損ねないよう配慮している。	利用者一人一人の性格を把握し、それぞれに合った丁寧な言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を表すことができるような声かけや選択出来る場面を作ったり自分で決めて頂くなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴したい日、時間など出来る限り一人ひとりのペースに合わせて、生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	行きつけの理美容室や、本人の希望の理容・美容室に通えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作りは一緒に行うことが困難になってきているが、畑の野菜の収穫や山菜の下準備、だまもち作りなど一緒に行ったりしている。おしぼりたたみ、テーブル拭き、配膳、下膳など利用者が行っている。	利用者はテーブル拭き、箸の準備、盛り付けた皿を配ったりして関わっている。デザートも含めてすべて手作りで、利用者は残さず完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量の状況は個人記録に記入され把握している。又、ご本人様に合わせた食事の提供を心掛けている。4ヶ月に一度は、外部(地域在住)の栄養士に献立を見て頂き指導、助言をお願いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、夕食後には義歯洗浄後ポリドントを使用している。うがいの困難な方には水分摂取をして頂けるよう努めているほか、口腔ケアシートを利用し口腔ケアに努めている。また、状態に応じ毎食後義歯洗浄、うがいを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、サインを把握し、トイレ誘導するなどし、気持ちよく排泄して頂けるよう配慮し支援している。	利用開始時リハビリパンツを使用していた利用者にトイレ誘導の声掛けの支援を行いリハビリパンツがとれたケースがあるなど排泄の自立にむけた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体動を促し、便秘の予防に努めている。また、嗜好や状態に合わせて乳酸菌飲料等の摂取を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴したい日、時間、順番を把握し、本人の体調に合わせて、希望に添った入浴が出来るよう支援している。	希望者には毎日入浴できる体制としているが平均すれば週に3回主に午前中入浴している。入浴を希望しない日は足湯と清拭の支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせて、休息したり、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに服薬中の薬、効能、用法用量について綴り、理解に努め他医療機関受診のさいに活用している。また、通院時にはお薬手帳を携帯し服薬確認、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、今できることから自然と役割が出来ている。また、一人ひとりの気分転換の支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ドライブ、買い物支援など戸外に出かけられるよう支援している。また、利用者様一人ひとりの誕生日には個々の担当職員と共に外食、植物園や買い物へ出かけるよう支援している。	利用者は月に1～2回近くのスーパーに買い物に出かけている。夏と秋は社長が作っている畑にトマトやサツマイモなどの収穫を楽しんでいる。また、誕生日に担当職員と利用者が好きなどころに出かけ外食する支援は喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が付き添いながら支払って頂くなど一人ひとりの希望や能力に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることは殆どないが、家族や親戚知人からの電話がかかって来たときは気兼ねすることなく使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、利用者様に不快な思いが生じないよう職員の声、テレビの音量などに配慮している。また、季節の花や貼り絵を飾るなど居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	共同の空間は清潔であり、木のぬくもりがある。また、小テーブルや棚など日常生活に便利になるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	北側ホールに椅子や本棚を設置し、一人で過ごされたり、気の合った利用者様同士で過ごせるよう配慮し活用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人様の使い慣れた物や好みの物を活用して頂けるように勧めている。居室は居心地良く過ごせるよう希望に沿って、畳や家具の設置など配慮している。	居室は希望によりベットのそばに畳を敷いて居心地良く過ごせる配慮がなされている。暖房は床暖で適温に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力を活かして、手すりの設置や器具の準備をし、出来るだけ自立した生活を送って頂けるよう配慮し混乱や失敗を防いでいる		